

第22回 埼玉圏央道オオタカ等保護対策会議

第22回 埼玉圏央道オオタカ等保護対策会議
議事録

日時：平成27年 3月 2日（月） 15：00～

場所：大宮ソニックシティ ソニックシティ 802会議室

出席者	座長	葉山 嘉一	日本大学生物資源科学部 准教授
	委員	池谷 奉文	公益財団法人日本生態系協会 会長
		柳澤 紀夫	公益財団法人日本鳥類保護連盟 前理事
		勅使河原 彰	狭山丘陵の自然と文化財を考える連絡会議 前代表委員
		鈴木 伸	鳩山野鳥の会 代表
事業者		上田 功	東日本高速道路株式会社 さいたま工事事務所長
		真田 晃宏	国土交通省関東地方整備局 大宮国道事務所長
事務局			大宮国道事務所

項目	主な意見と回答
(1) 平成27年繁殖期初期の調査結果	<p>・「会議資料① 平成27年繁殖期初期の調査結果」の説明（事務局 宮下）</p> <p>・どうもありがとうございます。事前のご説明の時よりも情報が少し増えているという事ですが、ご質問ございますか。いかがでしょうか。</p> <p>それぞれそれなりに動きが出ているという事です。■■■■■</p> <p>・調査地Lは繁殖兆候はあるということ。■■■■■</p> <p>・交尾声があったと記録されたということです。■■■■■</p> <p>・その後の調査地Lの2月26日以降の話はあるんですか。■■■■■ ■■■■■</p> <p>・いかがですか。情報が。調査地Lに関してですけれども。■■■■■ ■■■■■</p> <p>・今まとめてあるのが26日までですが、その後、27日には交尾声が4回、28日は交尾声が4回確認されています。（事務局 山田）</p> <p>・調査地Fの方はそういうことはない、そういう事ですね。■■■■■ ■■■■■</p> <p>・はい。（事務局 山田）</p>
(2) 調査地Lの保全対策	<p>・何かございますか。よろしいですか。</p> <p>では、状況を把握したという事で、調査地Lの保全対策についてご説明をお願いします。■■■■■</p> <p>・「会議資料② 調査地Lの保全対策」の説明（事務局 宮下）</p> <p>・はい、どうもありがとうございます。先ほどの、現在の繁殖の進み具合の内容に照らし合わせて、6ページの判断基準手順を見ます</p>

項目	主な意見と回答
<p>(2) 調査地Lの保全対策</p>	<p>と、赤の破線で囲まれた所という事になりそうですが、いかがでしょうか。</p> <p>工事の内容、3月期は昨年とは違って、高速道路本体の構造を作っていくという大規模なものというよりは、道路の上物をつくりあげてくっていく、そんなメニューに切り替わっていくようなのですが。[REDACTED]</p> <p>・昨年の3月の工事と、今年の3月ぐらいの工事の予定を、簡単に説明させていただきますと、昨年平成26年では圏央道まさしく本線、インターのランプにおいて、まず道路本体の工事を盛んに実施していました。今年平成27年におきましては、本線およびインターの残った部分、まだ若干工事が残っておりますので、それらの本体の工事、だけではなくて、供用後に必要になる付属施設になってまいります。そういった付属施設であり遮音壁、遮蔽施設、標識類、それから道路照明類、植栽等を中心に今年はやっていく予定でございます。(事務局 宮下)</p> <p>・まあ、そういう状況がある、という事で、どういう風に判断を下すか、議論していきたいと思いますが、ご意見をお聞かせ下さい。[REDACTED]</p> <p>・昨年の第17回と18回の会議資料を比較してみたんですけども、昨年の18回の3月にやった時のですね、2月の状況に今回の1月の状況はかなり似ていますね。ということは、これは完全に顕著な繁殖兆候があったと判断せざるをえませんが、そのような保全対策を進めてほしいということです。[REDACTED]</p> <p>・[REDACTED]はいかがですか。同じ認識ですか。[REDACTED]</p> <p>・ええ。[REDACTED]</p> <p>・ここまではっきりすると、なかなか難しい話になっちゃいますよね。何とか両立できないかという感じがあるんですけどねえ。ここまでオオタカが固執する。そうすると、その周辺の今後の工事のあり方っていうか、例えば照明あたりが非常に重要で、高い照明をつ</p>

項目	主な意見と回答
<p>(2) 調査地Lの保全対策</p>	<p>けられるとね、オオタカが繁殖できなくなっちゃうということがあるんですよ。今後のどういう種類の工事でどういう完成図になるのかね、その辺の事もちょっと話し、というか議論しないとイケないですね。ここまでオオタカは固執してここで繁殖するんだ、となるとなかなかね。■■■■■</p> <p>・■■■■■、いかがですか。■■■■■</p> <p>・2月の後ろのオオタカの観察で、オスメスほとんど判ってないのだけれども、分からないものかなあ。ちょっと残念なところですよ。多分、1月の末から2月の初めぐらいのところでも少しまとまってますけど、そこで今年のメスがどっちへ行きたがったか、それで少し見えるところがでるのではないかと私は思っていたので、メスの動きがわからないというのはちょっと残念です。それから言えば、もう調査地Lは二羽で来ているということですから、はっきりしたのでないでしょうか。1月の末くらいにちょっと大きなクレーンを動かしたりしてみれば調査地Fへ行ったかもしれないな、という事はあるかもしれません。今のところははっきり調査地Lを使うということだと思います。■■■■■</p> <p>・そうすると皆さんのご意見は、ご説明の中で提示された、顕著な兆候が確認された場合、ということに相当して、粛々と対応していくという事に、今のところなりますね。それでよろしいですか。</p> <p>それで、今後、また3月の期間がありますので、3月中に変化がある可能性も否定できないので、3月時点でもう一回会議で最終的な確認をすると、そういう手順になりますが、よろしいですか。</p> <p>では、今お話ししたような進め方で対応して頂くという事に致します。よろしくお願ひ致します。</p> <p>事務局の方から何かありますか。■■■■■</p> <p>・はい、ご意見ありがとうございました。とりまとめて頂いた通り、3月期の工事は中止、一時見合わせてモニタリングをやっていきたいと思ひます。工事、今は途中ではございますが、安全対策等、必要な対策を実施した後に中止に入りたいと思ひますので、よろしくお願ひ致します。(事務局 宮下)</p>

項目	主な意見と回答
(2) 調査地Lの保全対策	<p>・すぐには工事はやめられないという事ですね。やめられないというよりはやめるための準備をしていくという事ですね。 [REDACTED]</p> <p>・はい。(事務局 宮下)</p>
(3) 坂戸高架橋下における環境調査及び希少植物生育可能性調査	<p>・わかりました。よろしいでしょうか。はい、それでは今日一番重要な議論が方向が決定したということで、最後の坂戸高架橋下における環境調査及び希少植物生育可能性調査、会議資料③のご説明をお願いします。 [REDACTED]</p> <p>・それでは、会議資料③「坂戸高架橋下における環境調査及び希少植物生育可能性調査」について説明させていただきます。調査結果につきましては、調査とりまとめを担当しております調査会社の方から説明させていただきます。よろしくをお願いします。(事務局 宮下)</p> <p>・「会議資料③ 坂戸高架橋下における環境調査および希少植物生育可能性調査」の説明 ((株) 建設技術研究所 川崎)</p> <p>・ありがとうございます。今のご説明で何かご質問、ご意見が御座いますでしょうか。 [REDACTED]</p> <p>・水が無くなる時があるじゃないですか。これはやっぱり問題なので、水を確保する方法は何か検討しているのですか。 [REDACTED]</p> <p>・これは周辺の水田の取り扱いに連動しているということですね。水の有無というのは。 [REDACTED]</p> <p>・その動きはそうなっちゃうんだけど。ちょっと掘るとかできないのかな。 [REDACTED]</p> <p>・渇水期の地下水位はどのくらいなのでしょうかね。用水路に水が入らないことで、その時期に水が必要ということになるとかなり大がかりな話になりますよね。掘り下げるとどの程度で水が出てくるのですか。 [REDACTED]</p>

項目	主な意見と回答
<p>(3) 坂戸高架橋下における環境調査及び希少植物生育可能性調査</p>	<p>・ 渇水期、水田に水がない時期は、資料の1ページ右下のグラフを見て頂きたいのですが、計測地点①②③は上の絵にあります位置になります。平成25年、平成26年と調査していきまして、5月中旬から水田に水が入りまして、水域がゼロレベル、いわゆるグランドレベルより上に行って、そのあと秋に水田から水を抜くと水位が下がります。一番少なくなる5月直前、4月、5月くらいになると1メートル～1メートル50センチ下に水が下がっているという調査結果でございます。(事務局 宮下)</p> <p>・ そこまで掘り下げると水がにじみ出てくるのですかね。 [REDACTED]</p> <p>・ ストレーナーを入れてあって、そこに水が見えるという事なので周りには水が確かに1メートル～1メートル50センチ位の間にあると思われまして。(事務局 宮下)</p> <p>・ それは河川と連動しているということですか。 [REDACTED]</p> <p>・ 調べてはいないですけど、河川に連動しているのではないかと思います。(事務局 宮下)</p> <p>・ 基本的には高架橋下をどういうふうに自然再生しうるか、それを検証していることと考えられますが、あまり大がかりなことはできないですね。 [REDACTED]</p> <p>・ 関連するのですが、こういったことというのは道路を通すことに対するミティゲーションですよ。代替措置じゃないですか。それにしてもあまりにもみみちすぎるんだよね。20メートル、17メートルって、道路をどれだけ作るんだって。どうみたって世界的に笑われちゃうんだよね。この程度の事だと。この水をゼロにしちゃうと当然魚死んじやうわけだから良いわけがないので、1メートル50センチ位掘ればいいんで、何とかなるわけです。そういったことをまだ先があるわけだから、ちゃんと広げていかないと。将来世代の遺伝子をどう守るかという話ですから、現在世代の利便性だけで将来世代の財産はいらなくて、すごい古い昔のそのまま</p>

項目	主な意見と回答
<p>(3) 坂戸高架橋下における環境調査及び希少植物生育可能性調査</p>	<p>なんだよね。</p> <p>こういう委員会がなくても、高架下全体をビオトープ化するなんてあたりまえの事だと思う。そういう事がなぜできていかないのか。根本的に持続可能な国をどう作るかっていうのが世界最大の課題になっているわけでしょ。日本も国際的に約束しているんですよ。持続可能な社会はどうするのですかって。それは開発と自然との調和でしょ。両方必要なんじゃないですか。</p> <p>道路を作るっていうことが必要だというのはもちろんわかる。しかし、それに見合った将来世代の遺伝子をどうするんですかということが抜けちゃっているわけじゃない。</p> <p>ビオトープもここだけじゃなくて、他もあるじゃないですか。あそこの話もちっとも出てこないの、あれも心配しているのですが、ちゃんと進んでいるのかなという。道路だけは着々と進んで行ってそのミティゲーション部分についてはほとんど後ろに行っちゃう。これは良いことではないですよ。</p> <p>均衡のとれた発展というのが重要ですから、道路局としても、こういったビオトープの再生というか、自然再生ということをして道路を作るのと同じウェイトで予算化して進めないと、我々としては道路をこのまま作っていくことに対してもろ手を挙げて賛成ってわけにはいかないね。こういったことをきちっとやってもらわないと。たったこればっかでいいか悪いかってやるのは変な話で、これを一つのモデルとして、まだずっとあるわけですからどんどん増やしていくこと。■■■■■</p> <p>・そういう点では桶川IC先の高架下のビオトープってこの所出てきていないのですけれどもどう事業が進んでいるかですよ。</p> <p>やっぱりそれは、道路ができたなら移管されちゃうわけですから、その前にきちんとビオトープ化されなくちゃまずいわけで、そのあたりは道路だけが急いで、そっちが出てこない。そういう点では、上尾道路でも保護団体の方がという理由で遅れているんじゃないかということで僕の方にも不満が来ている。■■■■■</p> <p>・今日はその実験している内容についてのご説明ということなので、今の■■■■■、■■■■■の話に答える十分な資料をお持ちではないと思うんですけれども、将来を見越して、高架橋の下の部</p>

項目	主な意見と回答
<p>(3) 坂戸高架橋下における環境調査及び希少植物生育可能性調査</p>	<p>分をどういうふうの手当てしていくかに関して、基本的な方向を次回なりに示して頂きたいと思います。 [REDACTED]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あと2箇所あるよね。ここと調査地と。 [REDACTED] ・桶川加納ICの先の方はもうちょっと大規模な。 [REDACTED] の意見を踏まえてミティゲーションしたわけじゃないですか。 絵ができてきているのにどのくらい具体化しているのか、全然我々のところに資料が出てきていないわけです。 それはやっぱり、道路の工事と並行してそっちの部分についても資料が出て、工事が終わって供用開始した時には下のビオトープもすべて終わってそれも移管するという形にならないと、道路は出来後は高架下のビオトープはまだ遅れてますからということじゃ話が違うという事ですよ。そのあたりが見えるように次回あたりにはして欲しい。 [REDACTED] ・出来そうですか。いろいろ検討しなくてはいけない部分があると思いますけれど。 ここで実際に実験的なことを進めて、少しわかってきたのは、高架橋下の立地条件は非常に悪いという事ですよね。そう簡単には自然の再生を進めていくことは難しい。私も係っている大宮の首都高のビオトープですけども、あそこは、木本類を植えているところは高架橋の真下ではなくて、上に道がないところで森を作っていて、高架橋の真下の部分については、池がありますし草地があるけれども、なかなか水条件がよろしくない、光条件も問題があるということなので、他の地域も含めて、高架橋の下について、どの程度の自然の再生が可能なのかという事をおさえておかななくてはならない。 簡単に自然に戻せ戻せという話ではないのです。それには、それを検証していくための手立ての一つとして今やっているとのことですから。やっていることを報告されるだけでなく将来どういう風につながっていくのかの部分に関してご検討頂いて、次回、次々回にご報告いただければいいなと思います。これは私の個人的な意見ですけども。 [REDACTED] そんなところでよろしいでしょうか。 [REDACTED]

項目	主な意見と回答
<p>(3) 坂戸高架橋下における環境調査及び希少植物生育可能性調査</p>	<p>・それは、それで。あと一つ次回お願いしたいのは、先ほど申し上げた調査地Lの構造物がオオタカに影響が出るような構造物ができる可能性があると思っている。</p> <p>特に照明です。高くつけて照らすと、当然周りに光がたってオオタカの繁殖に影響することが考えられるわけだから、どういう構造になっているのか。あれがどんな構造になっているのか僕は知らないんだけど、オオタカがあそこに固執してあそこに巣を作りたいと言っているわけで、大変そういった意味ではいいことなので、インターと両立できればいいわけで、両立できる方法を考えてやらなきゃいけないわけじゃないですか。構造物の構造がどうなっているのか教えて欲しいと思っています。 [REDACTED]</p> <p>・それについては [REDACTED] 何か、どんな影響が出てきそうか情報ありますか。 [REDACTED]</p> <p>・明りの事は難しいです。今まで影響を示すものはないでしょう。 [REDACTED]</p> <p>・以前、 [REDACTED] を整備するときにオオタカの繁殖地が近くにあって、光の方向をストレートに巣の方に見せないように工夫をするというのがありましたし、場合によっては上から照らすのではなくて、足元を照らすようなものに切り替えるとか、いくつか光をコントロールするようなやり方を試みたことがありますけれども。 [REDACTED]</p> <p>・見沼たんぼに首都高を通す時に、当初は、道路の上に照明をつける予定だった。それをやると、あそこで将来的にホタルの再生をしたいわけで、そうするとホタルが繁殖できない。明るくて。</p> <p>だからあの部分については全部、上から照明は取り去って頂いて、下の高欄から出る状態になっている。</p> <p>将来的にはあそこに、昔ヘイケもゲンジもいたわけで、それを復元するという想定のもとにそういう構造にしてあるんです。それを考えるとここもさてどういう構造なのかなと気になるんですよ。両立できるようにしたいですね。 [REDACTED]</p>

項目	主な意見と回答
<p>(3) 坂戸高架橋下における環境調査及び希少植物生育可能性調査</p>	<p>・今の話、我々もきちっとした情報を持っていないので、ひとつ危惧される部分だという話なので、何らかの形でご検討して頂くということになりますかね。</p> <p>光がどういう風にオオタカの繁殖に影響するかということをきちっと調べた事例はないんですよ。</p> <p>ですから安全サイドに考えるという姿勢で、できるだけ光が営巢ポイントに届かない工夫をするというのが、今までの事例の保全対策の内容だったのですけれども。</p> <p>ちなみに調査地Lのところは、光はどういう状況になりますかね。まだわからないですかね。 [REDACTED]</p> <p>・今手元に資料がありません。(事務局 山田)</p> <p>・今日云々ということではなく、次の機会もありますのでちょっと認識して頂いて資料を集めるなりお考え願いたいと思います。よろしいですか。 [REDACTED]</p> <p>・私からちょっとあまり本質的な話ではないと思うのですけれども、2ページの光条件を調査されている、相対光量子束密度のグラフですが、平成25年も平成26年も5月、6月、7月が中央部と北側で逆転してますよね、少しですけど。これはどういう事からこうなるんですか。 [REDACTED]</p> <p>・橋脚の位置と西日の当たる時間帯の関係で、この区画の南・中央・北側の特に中央と北側で逆転現象が起こっているのではないかと考えられます。(株)建設技術研究所 川崎)</p> <p>・橋脚で、一番北側よりもむしろ中央部分が日陰になっているということですか。わかりました。 [REDACTED]</p> <p>・他にはいかがでしょうか。 [REDACTED]</p> <p>・調査地Lにあれだけ固執しているという事なので、将来的にあそこの緑地は担保できるように今まで地元と努力して保全の対策を</p>

項目	主な意見と回答
<p>(3) 坂戸高架橋下における環境調査及び希少植物生育可能性調査</p>	<p>立てているわけですがけれども、恒久的ではないですので、この機会にやっぱり国土交通省として、あそこを特別緑地保全地区に指定するとか、抜本的な対策を立てるようにぜひ努力して頂きたい。 [REDACTED]</p> <p>[REDACTED]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [REDACTED] からそういうご要望が出ていますので、ご検討ください。 [REDACTED] ・ あともう一つ些末な話ですがけれども、5ページのところの一番下にクサガメが出ていますけれども、県は準絶滅危惧種になっているんですが、最近の専門分野ではクサガメは外来種じゃないかっていう話が定着しています。これはいかがですか。 [REDACTED] ・ [REDACTED] ご指摘のように、最近クサガメについては中国から移入されたものじゃないかという論文が出ております。現時点で、県のレッドデータブックの見直しを今年度行っている最中です。イシガメは現状で残ると思いますけれども、クサガメはそういったことも考慮して外される可能性もあるなということで、結論的には来年度にレッドリストに残るか否かが明らかになると思います。((公財) 埼玉県生態系保護協会 須永) ・ シラコバトもですから。 [REDACTED] ・ シラコバトもですか。じゃあ仕方ないですね。 [REDACTED] ・ ありがとうございます。他にはよろしいですかね。 それではご要望がいくつか出ているので、それに対してご検討をよろしくお願い致します。 それでは、議事で用意された3つは以上で議論が終わったという事に致します。事務局の方で、その他、ございますか。 [REDACTED] ・ はい、その他はございません。ありがとうございました。(事務局 宮下)

第22回 埼玉圏央道オオタカ等保護対策会議

項目	主な意見と回答
閉会	<p>・それでは、まとめて頂いた意見、それから次回以降、報告事項を検討してまいりたいと思います。</p> <p>次回、第23回会議は3月26日木曜日、15時から開催を予定しております。よろしくお願い致します。</p> <p>年度末のお忙しい時期ではありますが、ご出席を、お願いしたいと思っております。</p> <p>以上をもちまして、第22回埼玉圏央道オオタカ等保護対策会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。(事務局 宮下)</p>